



誰にどうやって何を届けるのか？

「作る側が楽しんでないと、良い物は出来ない。僕はそう思っています。」

制作側が楽しみながら作れるように、クライアントの方だけを見て仕事するのではなく、半分はカメラマンやコピーライター、イラストレーターといった制作サイドの方を見ながら進行するように心がけています。

ブランドینگされた商品や空間で、エンドユーザーに価値を感じてもらえることで、クライアントの担当者も幸せになつていただけると思っています。それが制作サイドの幸せにもなるのだと思います。なので、まずはエンドユーザーに価値を感じていただけるものを作り、届けることが何より大切だと思っています。



その為には「どういったお客さまに、どういった表現で、どういった価値を届けるのか」を徹底的に考え抜くことが大切だと感じています。

堅いものをやわらかく

NEXCO 西日本の子会社で、高速道路の保守管理をされている会社の新卒採用パンフレットのご依頼を受けたときのお話です。担当者の方は「うちの会社は堅い人間が多いので、頭の柔らかい人に来て欲しい」と考えられていました。

仕事の内容としては、高速道路の保守管理、調査設計、技術開発。そのまま作るとどうしても堅

い内容になってしまいます。そこで「思いついたのがこの会社の仕事を、ミニカーやプラレールで遊んでいる姿で表現できないか」というアイデアでした。

ご年配の社員さんからは「それはちょっと柔らかすぎるのでは？」というような反応もありましたが、若い社員さんの多くから「面白そう！」という意見が出て「作ってみよう」と制作する方向で意見がまとまりました。

実際にプラレールで高速道路を作り、撮影が始まりました。プラレールの高速道路を見守る大勢の社員さんの姿。作業着、スーツ、つなぎ姿などの社員さんがミニカーで遊ぶ姿。嫌がっていたご年配の社員さんも、実にきらきらとした笑顔でカメラに収まっていただけでした。メインキャッチは「道を守り、道を愛す」。テーマカラーは高速道路の作業車の

イエローです。結果、とても楽しい会社案内が出来上がりました。

そして数ヶ月後、年配の社員さんからメールが届きました。「木村さんのおかげで、今年の新卒は柔軟性のある明るい方達が入つて来てくれました。最初は、大丈夫かな？と少し心配していましたが、結果に満足しています。木村さんにお願ひして良かったです」という内容でした。こうした現場の人の声を直接聞く機会は、実はあまり多くありませんので、このときいただいた言葉は鮮明に記憶に残っています。

デザインの仕事で人生を全うしたい

はじめて就職した会社は、当時の不景気のおおりに受け倒産してしまつたのですが、社長は、もの作りへの姿勢とか考え方、ライフスタイル、ファッションなど、若い僕には手の届かない、とても素敵で尊敬できる憧れの方でした。会社が倒産する際に、責任感の強さから自ら命を絶たれたのですが、僕にこんな言葉を遺してくれました。

「お前は、デザインはできるけど、人付き合いがうまくない。自分がなりたいたいと思える、いい先輩を見つけて。」

この言葉はその後、人生の節目節目で僕の背中を押してくれた、大切な言葉です。

仕事や人に対しては「愚直」でありたいと思っています。「愚直」が故に、たまに衝突することもありますが、自分の感覚を信じて「良いものづくりをする」というデザイナーの本分を忘れず、時間をかけて「愚直」にデザインを追求することを忘れずにいたい。周りの方々にやってもいいよって言うていただけるなら、この仕事で人生を全うすることができれば本望です。



イルサルto 10周年記念パーティ招待状

「10周年パーティを開催するにあたり全てにこだわりを持ちたい」

これが私の考えでした。パーティの内容はもちろん関わる全てに妥協したくない。お声がけする時から既に「イルサルto 劇場の始まり」そんなことを感じさせたかった。

最初のアプローチと言えば、お客様にお送りする招待状、この招待状のデザインを考えて下さったのも木村さん。イルサルtoのコンセプトやスーツ仕立て屋を見事に表現する招待状をデザインして下さいました！

10周年記念ロゴ

パーティの中で使う背景も特別なものにした。い！そんなお話をすると木村さんがご提案頂いたのが10周年記念ロゴです。パーティの日に初めてこの記念ロゴを発表することでより特別な空間になる、イルサルtoの織りと10周年を掛け合わせたこちらのロゴのご提案を下さいました！こちらのロゴはスーツにつける織ネームも作らせて頂きました。

